

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	ICTの活用が進み、算数や理科において知識・技能の向上が見られるが、漢字等に関しては、引き続き紙のドリル等を活用し、定着を図る必要があると考えられる。ICTと紙のベストミックスをめざし、効果的に知識・技能の向上を目指したい。
思考・判断・表現	授業内で、思考・表現する時間を確保してきたものの、さいたま市学習状況調査などでは、成果として大きく表れなかった。また、知識・技能に比べ標準偏差が大きくなる傾向が見られ、得意な児童と苦手な児童のばらつきが大きくなっていると考えられる。次年度は、探求的な学びのシンキングサイクルを研修で取り組み、自己の学びを振り返りながら思考・判断・表現する学習を繰り返すことで、学力を高めていきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 算数・理科において課題が見られる。標準偏差が大きく、得意な児童と苦手な児童のばらつきが大きい。 <指導上の課題> ICTを活用した指導法の共有が必要である。	⇒ ICT等を活用した個別最適な課題に取り組む【単元内3時間程度】。 校内研究において、ICTを活用した指導法の共有を図る【月1回程度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 無回答率が高い傾向にある。 <指導上の課題> 学校課題研究テーマ「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」への取り組み1年目なので、教員間の充分な理解や共有をよりいっそう図る必要がある。	⇒ 授業内で、思考・表現する時間を設ける【学びの指標アンケート設問4「自分ひとりで考える場面がある」で平均3.0以上】。 学校課題研究に計画的に取り組む【月3回程度】。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	学校課題研修において、自分で学びのスタイルを決めるなど、学習の個性化を意識した授業実践に取り組んだ。また、各学年のエバンジェリストを中心にICTを活用した指導法についても、学年内で共有し、実践した。
思考・判断・表現	A	学びの指標アンケート設問4「自分ひとりで考える場面がある」で平均3.44であった。各学級で思考・表現する時間をしっかりと確保することを意識した結果であると考えられる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、文の中における主語と述語との関係を捉える問題に課題がみられた。算数では「数と計算」の領域に特に課題がみられた。前学年までに習った漢字や言葉の使い方、除数が1数のわり算など4年生までの基礎的な計算に誤ってしまう児童も多いため、デジタルドリル等を活用して、基礎基本の定着に取り組みたい。
思考・判断・表現	国語「読むこと」において課題がみられ、解答時間が足りなかったと感じている児童が約25%いる。前年度までの読解力工場の研修を活かし、文章やグラフなどの資料を読み取る活動を継続的にを行い、読解力を向上させていきたい。算数では、全国でも正答率の低い複雑な問題に課題はみられるが、無回答率は低く、最後まであきらめないで問題に取り組もうとする児童が多かった。今後も様々な問題に触れ、思考力を高めていきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数・理科に比べ、国語・社会において課題が見られた。国語の漢字や語句の使い方、社会の方位や地図記号などの知識・技能について、タブレット等を用いて反復学習をしたり、学年をさかのぼって学習したりする機会を積極的に設けていく。
思考・判断・表現	算数や理科は、知識・技能に比べて課題が見られた。定義や解法を理解するだけでなく、説明したり活用したりする機会を授業内で多く設定し、思考・判断・表現の力の向上に努めていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	各学級で、実態に応じたICTを活用した授業を実践しているが、その活用内容や頻度に差があり、今後より教員間での共有が必要である。	修正なし
思考・判断・表現	B	6月に実施した学びの指標アンケート設問4「自分ひとりで考える場面がある」で平均3.4以上であった。全国学力・学習状況調査の無回答率も低く、問題に粘り強く取り組もうとする姿が見られる。	修正なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」 算数「図形」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。学習内容も多く、反復や振り返りの時間が十分に設定することが難しいことが課題である。	⇒ ICT等を活用した個別最適な課題に取り組む【単元内3時間程度】。 校内研究において、ICTを活用した指導法の共有を図る【月1回程度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」 算数「図形」「データの活用」 <指導上の課題> 学校課題研究では、学習の個性化に取り組む。探求的な学びのサイクルを取り入れ、児童が進んで思考する場面を増やしていく必要がある。	⇒ 授業内で、思考・表現する時間を設ける【単元内3時間程度】。 学校課題研究に計画的に取り組む【月3回程度】。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	調査結果
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	調査の振り返り(4月) ①児童生徒による振り返り ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告
思考・判断・表現	結果提供(7月)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現	中間評価(9月) 目標・策の見直し		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)